

首里城の早期再建と御茶屋御殿、中城御殿、円覚寺など 周辺の戦災文化財の一体となった復元を求める意見書

昨年10月31日未明、首里城正殿を含む建物8棟が焼損した火災から4カ月余、本市には、首里城再建に向けた励ましや寄附金・支援金が数多く寄せられ、その額は3月2日現在で14億2千8百万円を超えている。沖縄を思う温かい、力強いご厚情に那覇市議会としても深甚なる感謝の意を表する次第である。寄附者の首里城再建に役立ててほしいとの熱い思いに、確実に応えることを強く願うものである。

焼損した首里城は、1992年、沖縄の本土復帰20周年記念事業の一環で、戦災によって失われた貴重な歴史的文化遺産を復元し、琉球王国の歴史と文化の象徴、戦災復興のシンボルとして蘇り、沖縄のアイデンティティの形成、伝統文化や芸能の保存継承、万国津梁の平和交流と世界・アジアとの交易などを推進していく要として、沖縄県民の心のよりどころとなっている。

本市議会は、先駆けて「琉球王国の歴史と文化を象徴する首里城の早期再建などを求める意見書」を昨年11月6日に全会一致で採択した。

首里城の早期再建に向けて、国においては、「首里城復元に向けた基本的な方針」のもと「首里城復元に向けた技術検討委員会」が設置され、沖縄県においては「首里城復興の基本的な考え方」にもとづき「首里城復興基本方針に関する有識者懇談会」が設置され、それぞれ精力的な議論が行われている。

本県の「首里城復興の基本的な考え方」では、「首里城を中心に琉球文化を体現できる場として周辺地域の段階的な整備を検討し、風格ある歴史的環境を創出する」ことも謳われている。

まさしく、首里地域は、首里城のみならず御茶屋御殿や中城御殿、円覚寺など、いにしへの王府を彩る歴史的遺産を数多く有しており、これらを一体的に整備することが、古都首里のまちづくりに大きく寄与するものである。

御茶屋御殿の復元に向けては、1998年に幅広い市民と県民、伝統芸能関係者などで「御茶屋御殿復元期成会」を結成して復元運動を展開しており、本市議会は、2006年、2017年に「琉球王朝文化の殿堂・御茶屋御殿」の早期復元を求める意見書を全会一致で採択している。

よって、本市議会は、首里城の早期再建を求めるとともに、それぞれの役割を担いながら一体となって琉球王朝文化を形成していた首里城周辺文化遺産についても、戦争で破壊された歴史的経過を鑑み、首里城を含む古都首里の歴史文化遺産として一体的に復元するよう下記事項を強く求める。

記

- 1 風格ある歴史的環境の創出に向け、中核となる首里城の早期再建と御茶屋御殿、中城御殿、円覚寺など周辺の戦災文化財を一体となって復元すること。
- 2 御茶屋御殿など、首里城周辺の歴史的文化遺産の復元と整合性がとれるように、「首里城公園基本計画（首里杜構想）」を見直し拡充すること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和2年（2020年）3月4日

那 覇 市 議 会

あて先 沖縄県知事